

の学校跡地の活用方法は利用実態を鑑み検討すべきと思うがどうか。再編計画による子どもたちや保護者への影響を軽減するために、計画を前倒して実施してはどうか。

区長 今後の需要を踏まえた施設配置の検討に、指摘の視点を加えたい。

教育長 学校再編は初めて取り組む課題であり、着実に実施したい。中後期計画については、計画改定の検討時期を早めることも考えたい。

野方駅の整備状況は

南北からのバリアフリーおよび北口の開設位置の検討、西武鉄道との協議、用地確保の取り組みなどの現状は。また、区としてはいつ頃を目途に、着工時期や完成時期などの考え方を示す予定なのか。



区民の理解を得られる人事制度にせよ

民主クラブ 酒井 たくや

中野区には、特殊勤務手当が12種類ある。特殊勤務手当の定義が、著しく危険、不快、不健康であるなら、12種類すべてが適切ではなく、時代に合った運用が必要だ。区長は、特殊勤務手当を3種類にするとしているが、財政効果はどのくらいか。区は事業主として福利厚生事業を行う必要があるが、区民の理解を得られる事業とすべきだ。

整備内容や整備手法に関する協議を行っている。10か年計画策定時には、時期を明示できるように検討していきたい。

区は各地域で、「地域センター」(仮称)区民活動センターに転換する」と、まるで既に決定したことのように説明している。地域センターは区民生活に密接に係り、中野区自治基本条例でも区の計画立案段階での区民の参加が保障されている。今後どのように進めるのか伺う。

区長 意見を聞くにあたり、既定のようにとられる説明があったことは遺憾であり、適切な説明に努めたい。(仮称)区民活動センターは、議会や地域での議論を十分に踏まえながら検討していく。

区民の理解を得られる人事制度にせよ

民主クラブ 酒井 たくや

区長会では、特別区職員互助組合について、廃止を含めた抜本的な見直しに着手するようだが、結論はいつ出すのか。

生活保護世帯は毎年増加しているが、今後の増加と将来予測について、どう考えるか。三位一体改革で、区の負担が4分の1から3分の1に増えるようだが、どのような影響があるか。ケースワーカーへのケアと配置についてどう考えるか。生活保護費の過剰給付や不正給付を見直す工夫はしているか。

区長 景気や雇用情勢の回復の遅れなどから、今後増加傾向が続くと考えている。区の負担が増えないように働きかける。被保護人員および世帯数が増加傾向にあるので、それに見合った職員配置は必要だ。また、組織として職員を支える態勢づくりを行う。定期的な訪問による被保護世帯の状況把握や関係機関との連携をもとにした調査活動を充実させていく。若者にとって魅力あるまちづくりを

中野区は、20代が人口の18・9%も占めている。この



成人のつどい

年代層は流動が激しいので、ずっと住み続けなくなる「魅力あるまちづくり」が求められる。そのことが、税収の安定、地域力の強化、防犯防災へつながると思うがどうか。

区長 若者の力が生かされ、若者にとって魅力あるまちづくりをめざしている。また、若い人たちがひきつづける中野のまちの魅力が、若い人たちの力で発信され、広まっていってほしい。

西武新宿線野方駅のバリアフリー化は、喫緊の課題であるにもかかわらず、手付かずの状態だ。駅の階段が上れず、隣の駅まで歩いたり、バスで中野駅まで行ったりと、電車を利用するために高齢者などは大変な不便をしている。今目の前にいる、困っている人を助ける手段を講じるべきだ。野方駅にかかわる取り組みの進捗よく状況が、区民に見えていない。説明会や区報などで伝えるべきでは。北口開設や連続立体化などは、実現まで時間も費用もかかる。当面の策として、西武鉄道にリフト(階段昇降機)の設置を要請しては。



野方駅のバリアフリー化を急げ

無所属の会 近藤 さえ子

野方駅にかかわる取り組みの進捗よく状況が、区民に見えていない。説明会や区報などで伝えるべきでは。北口開設や連続立体化などは、実現まで時間も費用もかかる。当面の策として、西武鉄道にリフト(階段昇降機)の設置を要請しては。

区長 沿線まちづくりの勉強会は、連続立体化の推進も含め、長期のまちづくり検討のために立ち上げられた。一方、北口開設は、差し迫っている踏切問題解決の短期的取り組みである。こうしたことを、区報なども活用して区民説明に努めている。北口開設とバリアフリー化の実現に向けて西武鉄道と協議し、区として具体的な検討を進め

れ、若者にとって魅力あるまちづくりをめざしている。また、若い人たちがひきつづける中野のまちの魅力が、若い人たちの力で発信され、広まっていってほしい。

区長 若者の力が生かされ、若者にとって魅力あるまちづくりをめざしている。また、若い人たちがひきつづける中野のまちの魅力が、若い人たちの力で発信され、広まっていってほしい。

区長 沿線まちづくりの勉強会は、連続立体化の推進も含め、長期のまちづくり検討のために立ち上げられた。一方、北口開設は、差し迫っている踏切問題解決の短期的取り組みである。こうしたことを、区報なども活用して区民説明に努めている。北口開設とバリアフリー化の実現に向けて西武鉄道と協議し、区として具体的な検討を進め



沿線まちづくり勉強会

担い手不足が問題になっている。新たな担い手を育てるためには、補助金をつまく使わなければならない。区で行っている補助金の見直しの視点は、我孫子市では、補助にあたって第三者機関の審査がある。中野区でも透明性や成長力など、新たな発想の補助基準を加えては。区民の自己責任に任せる前の実態把握と支援が、行政の大きな課題であると思うが、考えは。

区長 区民の公共・公益活動への期待が高まっている中、公共・公益の概念やその領域について、既成概念にとらわれず検討すべきと考えられる。区民団体は、自主・自立を原則としている。これを基本に透明性などを重視し、公平・公正な補助のあり方を追求していく。第三者機関のあり方も参考にしたい。資金面だけでなく、活動の場や情報の提供、人材育成などの支援も重要な要素と考える。

区長 区民の公共・公益活動への期待が高まっている中、公共・公益の概念やその領域について、既成概念にとらわれず検討すべきと考えられる。区民団体は、自主・自立を原則としている。これを基本に透明性などを重視し、公平・公正な補助のあり方を追求していく。第三者機関のあり方も参考にしたい。資金面だけでなく、活動の場や情報の提供、人材育成などの支援も重要な要素と考える。



新しい10か年計画の基本的な考え方を示せ

市民自治 はっとり 幸子

公共サービス全てを行政が担う時代から、官・民一体で展開する時代へと変化した。持続可能な地域社会づくりに向け、目標を定め、民間の資金や力を活用し、区民の力を

生かすなど、手法や資金調達を柔軟に行うことで、新しい公共サービスを上げていく。従来とは異なる基本計画づくりが求められている。現在検討中の、「新しい中野をつくる

10か年計画」は、これまでの長期計画とどう違うのか。

区長 新たに策定する10か年計画は、10年間の財政運営の見通しを立て、施策ごとに指標と目標値を設定し、その取り組みと成果を示す戦略的な計画であり、柔軟な施策展開を図り、実現可能な計画という点でこれまでの長期計画とは異なっている。

介護保険法改正への対応を。今回の介護保険法改正の柱は、介護予防を重視する「新予防給付」だが、サービスが減るのではと不安に感じている受給者に対する区の対応は。介護保険サービス事業者は、改正後の介護報酬の予測がつかず、新規事業への参入準備ができていない。小さくても良心的できめ細やかな活動を行う事業所に対し、何らかの対応はできないか。

区長 ケアマネージャーや事業者、介護サービス従事者に改正内容を周知し、利用者が不安を感じないようにしたい。事業運営上必要な情報を提供するとともに、中野区介護サービス事業所連絡会などを通じて研修を実施するなどの支援を



ごみの収集作業

行いたい。ごみゼロ都市をめざせ

国も自治体も巨額の借金を抱える今、ごみ処理費用も聖域扱いせず、環境負荷の少ない社会をめざし、納税者負担から生産者・消費者負担へと転換することが必要である。中野区廃棄物減量等推進審議会の答申では、税の有効利用の観点から、有料化についての議論の必要性と、まずは、そのための場の設置を提案したが、どう考えているか。

区長 ごみ問題の現状と課題を区民に説明し、理解と協力を得よう努めたい。また、ごみ処理やリサイクルにかかる経費などの情報を提供し、区民や事業者とごみ減量や有料化などについての話し合いを重ね、有料化についての合意形成を図っていききたい。



中野駅周辺まちづくり整備の考え方を問う

公明党議員団 斉藤 高輝

中野駅や駅前広場の改善は、今後の中野区全体のまちづくりに関係する極めて重要な課題である。整備を進めるため、平成16年度に実施した委託調査の成果はどのようなも

題である。整備を進めるため、平成16年度に実施した委託調査の成果はどのようなも